

2025 年 9 月 29 日

日本セーリング連盟
キールボート強化委員会御中

Team Summer Girl
(文責：服部 好彦)

2025 Rolex New York Yacht Club Invitational Cup 日本チーム活動報告

1. はじめに

2025 年 9 月、米国ロードアイランド州ニューポートにて開催された [Rolex New York Yacht Club Invitational Cup](#) (以下、IC) における、日本チームの派遣活動についてご報告いたします。

本大会は、世界有数のヨットクラブが参加する国際的アマチュア最高峰レースであり、日本チームは 2009 年の初回大会以来継続的に参加してきました。

今回の派遣は、国際舞台での競技経験を積むと同時に、次世代セーラーの育成を目的とし、「経験と次世代の融合」をキーワードにチームを編成しました。

2. チーム編成と派遣体制

- チーム名称：[NYYC Invitational Cup Japan Team 2025](#)
- メンバー構成：大学生 3 名、大学院生 1 名を含む計 10 名
 - Team Captain：馬場 益弘 (「チーム SummerGirl」オーナー/JSAF 会長)
 - Helms person：船澤 泰隆 (「Natsuko」オーナー/JSAF 副会長)
 - Tactician：後藤 浩紀 (モスクラス全日本/通算 11 回チャンピオン)
 - Bow person：後藤 凜子 (HOPE/49erFX：青山学院大学)
 - Mast hand：山田 海統 (同志社大学出身/神戸大学大学院)
 - Pit：服部 好彦 (SummerGirl クルー)
 - Jib trimmer：森田 栄納介 (SummerGirl クルー)
 - Main trimmer：嶋倉 照晃 (HOPE/49er：早稲田大学)
 - Running backstay：市橋 愛生 (HOPE/49erFX：早稲田大学)
 - (Sub) Floater：三輪 虹輝 (SummerGirl クルー)
- メンバーの平均年齢：39 歳
- 体制：経験豊富なベテランと次世代を担う若手を融合させた混成チーム
- サポート：メディアチームとして Layline Media 中嶋一成氏が参加

3. レース結果と活動内容

- 総合順位：13 位 (全 20 チーム中)
- 成績推移：軽風域ではポテンシャルを発揮し、1 位 (R#5)、3 位 (R#8)、4 位 (R#4) を記録。一方、強風域や波・うねりに課題あり。
- 準備活動：国内で 4 回の福岡合宿に加え、現地入り後 9 月 3～5 日のプラクティスを含め集中的に練習を実施。
- 強豪チームとの比較：優勝したサンディエゴ YC は全レースで安定した戦績を残し、同大会での経験差は顕著。
- 付随活動：パレード・オブ・ネイションズやクラブイベントを通じ国際交流を実現。

4. 成果と意義

1. 若手育成

- 学生セーラーが世界最高レベルの大会を体験し、次世代への継承を実現

2. 国際交流

- 各国セーラーとの交流を通じ、グローバルな文化を体感

5. まとめ

今回の参加は成績面では満足できる結果ではなかったが、若手登用と国際経験獲得という点で大きな意義を残した。

この経験を糧に次世代へつなげ、2027 年に向け基盤づくりを進めていきたい。

最後に、大会参加を支援してくださった JSAF 関係者、各位に深く感謝申し上げる。

以上

(別葉に若手 4 名の参戦記録を添付します)

<ご参考>

Layline Media 中嶋一成氏による wrap up ビデオ

Day-1

https://youtu.be/_WTFwOXDUXY

Day-2

<https://youtu.be/4MxmvIVBSMk>

Day-3

<https://youtu.be/Nr1urHEgbJM>

Day-4

<https://youtu.be/mtEJy6FmRmg>

Day-5

<https://youtu.be/zBUqvgubJq8>

(山田海統)

マストを務めました山田海統です。まず、この貴重な機会と経験をいただいたことを、関係者の皆様、そしてオーナーに心より感謝申し上げます。

この大会を通じて、私は日本におけるセーリングの位置づけや価値観に対する自分の見方が大きく変化したことを実感しました。多くの日本のセーラーにとって、セーリングの頂点はオリンピックにあると思います。しかし、今回の遠征を通じて各国のセーラーと交流を重ねる中で、オリンピックは数ある素晴らしい大会の一つに過ぎず、それだけがセーリングの目標ではないという価値観が存在することに気づきました。

たとえば、アメリカズカップやヴァン・デ・グローブ、さらにはこのインビテーション・カップも、オリンピックに比肩する名誉ある大会として深く尊重されています。こうした大会に向けた取り組みの多様さや、競技スタイルの幅広さは、ディンギー種目に注目が集中しがちな日本のセーリング観とは対照的であり、西洋と日本の文化的背景の違いを如実に感じました。

今回、日本チームは13位という結果となりました。悔しさは残るものの、IC37という艇に現地で初めて触れる状況下で、わずかな準備期間のなかで適応し、レースを重ねるたびに明確な成長を見せられたことは、大きな成果だったと自負しています。特に、機会をくださったオーナーのご厚意と、各メンバーの努力、結果を出すために国内でサポートしてくださった方々の支えがあってこそ、この挑戦は成立しました。この場を借りて、深く御礼申し上げます。

また、本大会を通じて、日本の今後のセーリングにおける課題も明確に見えてきました。例えば、あるチームは本国にIC37を保有しながら、ニューポートにも同型艇を自前で係留しています。あるチームはこの大会に勝つためにユースからキールボート人材を育成し、ヨットクラブの支援のもとで長期的な体制を築いています。別のチームでは、アマチュア大会であるにも関わらず、大手企業による継続的なスポンサー支援がなされています。こうした差は、各国に根付いた「ヨットクラブ」という文化的・制度的基盤の有無に起因しているように感じます。そのようななかで、日本では制度としてのヨットクラブがまだ成熟していないにもかかわらず、異なる背景を持つメンバーが短期間でチームとして団結し、この舞台に立てたことは、十分に誇るべきことだと思います。

セーリング競技の競技人口が減少傾向にある今、日本としてのプレゼンスをどう維持し、どう広げていくのが今後の大きな課題です。新規層の開拓だけでなく、既存層の維持・継続、そして制度的な基盤作りが求められていると感じます。たとえばヨットクラブの再設計、キールボートへのアクセス改善、若手人材の育成といった点も、今後の重要な検討事項となるでしょう。

本大会は約20年前に創設され、日本は当初からJSAFとして参加してきました。今回も唯一アジア人のみで構成されたチームでしたが、今後新たな国際大会が設立されたとき、日本が再び招待されるにはどのような環境整備が必要なのかを、現場に立って初めて実感しました。今回の経験は、先人たちが築いてこられたセーリング文化の延長線上にあり、私はそれを「受け継ぎ、楽しみ、伝え、未来へとつなげる」責任を、次の世代に向けて強く意識するようになりました。

以上をもって、本大会への参加に深く感謝しつつ、報告とさせていただきます。ありがとうございました。

(嶋倉照晃)

このたび、アメリカ・ニューポートで開催された「ROLEX NYYC Invitational Cup」に参加しました。普段取り組んでいる 49er 級とは異なり、9 人乗りのキールボートによるレースであり、乗艇人数も多く、チームワークや役割分担の重要性を改めて感じました。各ポジションで求められる技術や連携は非常に繊細で、一人ひとりの動きがレース全体に直結する緊張感を強く実感しました。レースはニューヨークヨットクラブ主催のもと、世界各国の名門クラブが参加しており、その雰囲気からも歴史と伝統の重みを肌で感じました。日本ではヨットクラブの文化が十分に根付いていないため、今回はフェデレーションとしての参加でしたが、各国のクラブが持つ文化や組織力に触れ、日本におけるクラブの在り方について考えるきっかけとなりました。普段と異なる艇種での経験は新鮮であり、今後の競技活動にも活かせる貴重な学びとなりました。

(市橋愛生)

私は普段 49erFX にスキッパーとして活動していますが、今回初めて IC37 に乗り、ニューヨーク・ヨットクラブのインビテーショナルカップに参加する貴重な機会をいただきました。

大会を通じて最も印象に残ったのは、個人の判断や技術だけではなく、10 人という大人数だからこそ求められるチーム全体の協調とコミュニケーションの重要性であり、それが結果に直結することを改めて実感しました。

さらに今回は、セーリング技術の向上だけでなく、世界のヨットクラブ文化や社交の場に直接触れることができ、大きな刺激を受けました。特にニューヨーク・ヨットクラブの伝統と格式には感銘を受けました。

この経験を糧に、今後はスキフでの活動にも還元し、より広い視野をもってセーリングに取り組んでいきたいと考えています。

(後藤凜子)

今回、サマーガールの一員としてインビテーショナルカップに出場した経験は、これからのセーリング人生において大きな糧となることでしょう。西宮で事前練習を行った日が私にとって初めてのキールボートでした。それまではレースはおろかキールボートの世界にはほとんど関わっていませんでした。サマーガールや TE の皆さんに隅々まで手取り足取り教えていただいたおかげで、日々大きく成長できたと実感しています。特に、ニューポートでの前入り練習は、レースの雰囲気も合わさり、さらに濃い時間となりました。チームメンバー全員で課題を確認し、皆で意見を出し合い、レースに向けて試行錯誤していく過程は何にも変え難い楽しさがありました。練習を重ねていくにつれチームワークに磨きがかかっていき、有意義な事前練習になったと思います。レースが始まってからは、驚きの連続でした。何より驚いたのは今大会の社交性です。大会期間中に計 3 回のパーティが開かれ、毎日帰着後にはデイリーアワードがあります。着艇後にはお酒を酌み交わし、チーム同士でレースの話に華を咲かせる時間は、今大会特有の華やかさがありました。今大会で知り合った他国の選手とまたどこかで再開できるのが楽しみです。チームが満足のいくレース結果とはなりませんでした。今回のキャンペーンとレースで得た学びは非常に価値があると感じています。このような素晴らしい大会に代表チームの一員となって参加できたこと、誇りに思います。馬場オーナーならびにサマーガールメンバーの皆様、日本から応援してくださった皆様に改めて感謝申し上げます。今後は引き続き FX での活動に戻りますが、機会があれば今大会の経験を活かし、キールボートのレースにも参加していきたいです。